

「津軽鉄道でむすぶまちづくり」

担当教員 西城戸誠 長峰登記夫

コース概要

日程 2019年2月16日～2月22日

場所 青森県五所川原市、中泊町、つがる市

参加人数 13名

コースのねらい

本フィールドスタディは、赤字路線のローカル鉄道の中でも人気の津軽鉄道とそれをサポートする沿線の地域活動をたどり、奥津軽地方の着地型観光の実践や地域づくり、まちづくりの現場を学ぶことです。「津軽鉄道でむすぶまちづくり」というコース名は、このフィールドスタディの実践によって、地域のまちづくりの実践をつなぎ合わせるという意味も込められています。つまり、本フィールドスタディは、訪問先から「学ぶ」という側面と、私たち自身が「地域にかかわる」ということがどういう意味を持つのかという点を再帰的に捉えることを企図しています。赤字路線のローカル鉄道の中でも人気の津軽鉄道とそれをサポートする沿線の地域活動や、コミュニティカフェの実践を学び、地域づくり、まちづくりの現場を学びます。

内容

1日目：五所川原駅近くのコミュニティカフェ「でる・そーれ」に集合し、「立佞武多の館」を訪問しました（なお、深夜バスで到着した参加者は、立佞武多の紙貼り体験をさせていただきました）。その後、「奥津軽基礎講座」と称して、まず立佞武多の館の菊地忠館長から立佞武多の復活の経緯と、現在の状況についてお話をいただきました。次に、でる・そーれの松野麗子さんから、でる・そーれ10年の歩みとご自身の関わりについてお話を伺い、松野さんやでるそーれのスタッフが、コミュニティカフェでるそーれとともに一緒に成長していく様子が理解できました。最後に、五所川原市の地域おこし協力隊の山下貴さんから、五所川原市の魅力について地域内外の視点から伺いました。講義の後は、グループに分かれて、農家民泊をし、地元ならではの食事とともに、地域の方といろいろな話をして、世代を超えた交流を行いました。

2日目：農家民泊先から集合し、昨夜の出来事のふりかえりを行いました。参加学生の感想に対する民泊先の方からコメントをいただきました。また、津軽鉄道サポーターズクラブの米山竜一さんから、クラ



農家民泊先の方と一緒に



新座敷にて太宰治の話を伺う



ストーブ列車の中でスルメを食べる

ウドファンディングを使った津軽鉄道の転車台復活プロジェクトの話をしていただきました。また、津軽半島観光アテンダントの小枝美知子さんから、津軽鉄道におけるさまざまなイベントについてお話を伺いました。その後、津軽鉄道のストーブ列車に乗り、津軽五所川原駅から金木駅まで移動し、太宰治の生家である斜陽館や、新座敷、ぼっぼ屋を訪問し、太宰治を巡った観光の「質」の違いについて学びました。夜は、でる・そーれで「うちごはん」をいただき、現地の方との交流を深めました。

3日目：つがる市木造に移動し、フィルムコミッションの川嶋大史さんに、地元を舞台とした映画づくりについて話と、ご自身のこれまでの活動について伺いました。昼食は地元でカツ丼が有名な三浦食堂でとり、稲垣薫の会の方の指導のもと、わら細工の体験を行い、廃校になった小学校の跡地利用について見学しました。次に、中泊町の農家（イネ子の畑）に伺い、冬のアスパラガスの収穫体験と佐藤イネ子さんの地域活動や津軽鉄道応援直売会などの話を伺いました。そして、宿泊先の中泊町ふれあいセンターに移動し、これまでのフィールドスタディの内容の振り返りを行いました。夕食は、中泊町のグリーンツーリズム団体「かけはし」の方をお願いをし、学生たちも少しだけデザートづくりを手伝いました。夕食後は、参加学生は課題－外国人旅行者に対する「奥津軽の取扱説明書（トリセツ）」作成－に取り組みました。

4日目：「かけはし」の方が作ってくれた朝食を頂いた後、五所川原市にもどり、桑田ミサオさん（92歳）と一緒に、笹餅の制作体験をしました。桑田さんは75歳で起業し、地元や津軽鉄道の車内販売でも大人気の笹餅を作られています。本フィールドスタディ10回記念にふさわしいゲストでした。最後に、でる・そーれにおいて地元の方の前で課題の発表を行い、五所川原を後にしました。



冬のアスパラガス収穫（イネ子の畑）



桑田ミサオさんと笹餅づくり



でる・そーれでの発表会

学習を終えて

奥津軽 FS は、ほとんどが初体験でありとてもよい経験になりました。今回のテーマである「まちづくり」を様々な体験・見学・生声を通してより深く学ぶことができました。まちの名物であるリンゴ、立佞武多、津軽鉄道などを生かしたまちづくりの知恵や努力、そしてまちの歴史、偉大さを知りました。初日の夜、民宿に泊まりましたが、初めての体験で少し緊張しましたがとても歓迎してもらえました。普段味わうことの出来ない人の温かさを感じることができました。民泊の方々だけでなく、先生をはじめでるそーれの皆様、スタッフの皆様の温もりを感じる事が出来る4日間でした。「もう一つの家」が出来た気がします。次、行った時「おかえり」といってもらえるそんな場所でした。「ただいま」と言いに行きたい気持ちになりました。（2年 橋本拓郎）

この奥津軽 FS はまちづくりがテーマではありますがこの他にも現地の様々な人に出会うこともテーマとなっていました。私がお会いした方の中でも特に立佞武多の館の菊池館長のお話が印象に残りました。今でこそ五所川原市は立佞武多のお祭りでも有名ですが以前は電線が通ったことにより立佞武多が縮小化されてしまうなどの苦難があったことを知りました。困難を乗り越え元の姿を取り戻した立佞武多は多くの観光客を呼び込み、衰退しかけていた商店街を救うなど大きな役割を果たしたのです。「ひとは町をつくるが、後には町が人をつくる」と最後に話されていましたが、一度できた町が続いていくには地元を愛する人がどれだけいるかが重要であるということが分かりました。（3年 三沢まどか）